

くりはらの大豆だより

宮城県栗原農業改良普及センター

令和7年度 第3号 令和7年10月31日発行

TEL 0228-22-9404

大豆栽培の今後の管理のポイント

■適期収穫 ■汚粒対策（雑草抜き取り等） ■乾燥・調製

生育状況（9/2生育調査結果）

- ・ミヤギシロメでは平年と比べて、主茎長が短く、主茎節数、分枝数は並みとなっています（表.生育調査は調査結果）。
- ・すずみのりでは品種特性値(※2)と比べて、主茎長が短く、主茎節数が少なく、分枝数は多くなっています（表.生育調査は調査結果）。
- ・管内のタンレイは完全落葉となっており、ミヤギシロメやすずみのり、タチナガハでは落葉終期となっています。

表. 生育調査は調査結果

品種 地域		播種日	主茎長	9/2調査			成熟期
				主茎節数	分枝数	開花期	
すずみのり	本年値	6/11	34.0 cm	9.5 節/本	5.5 本/本	7/27	未
志波姫新八樟	品種特性値	—	85.0 cm	15.8 節/本	4.5 本/本	7/31	10/30
ミヤギシロメ	本年値	6/9	86.6 cm	17.8 節/本	3.8 本/本	8/5	未
若柳三田鳥	平年差	9日遅	-16 cm	+0.1 節/本	+0.9 本/本	同日	11/4

※1 平年差は過去5年の平均値との差です。

※2 「品種特性値」は宮城県優良品種決定調査結果の5年平均値。「すずみのり」生育調査は今年度からのため平年差なし。

刈取時期の目安・チェック方法

- ・早刈りは損傷粒や汚粒の増加、刈り遅れは割れ豆やしわ粒、裂莢、紫斑粒の増加要因となるため、適期刈取りを心がけましょう。
- ・コンバインによる収穫の適期は、一般的に「完全落葉後25～35日頃」とされています。ただし、子実・茎の水分、茎や莢の色調、莢内での子実の振動音など、複数の要素を総合的に判断する必要があります。そのため、以下の図（収穫適期の判断フロー）を確認しながら、収穫適期を見極めましょう。

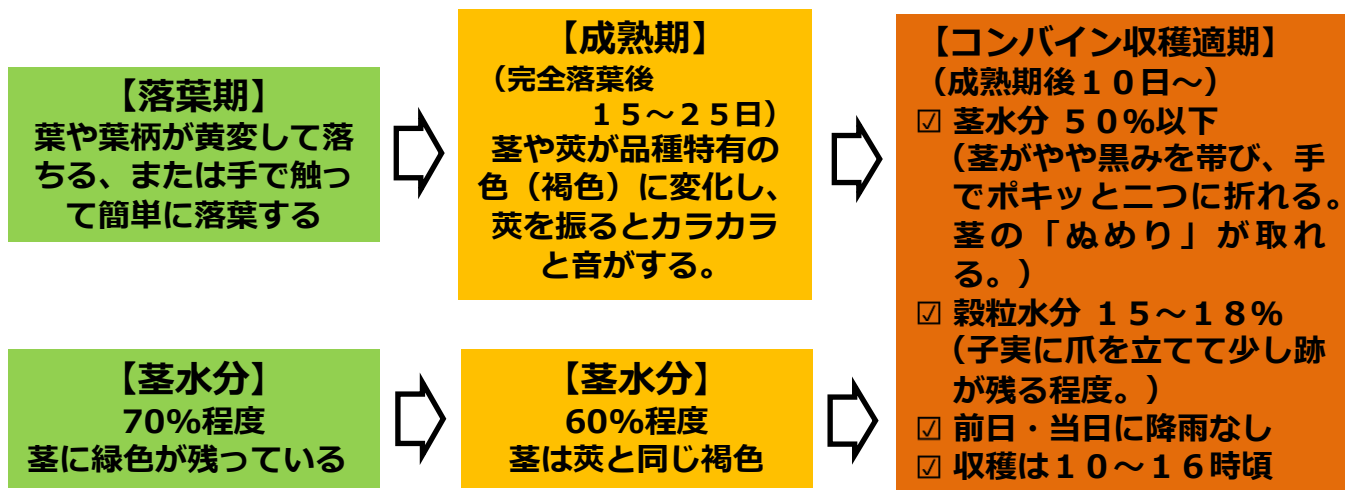


図. 収穫適期の判断フロー

汚粒対策（雑草抜き取り等）

- ・刈取時の土の掻き込みは汚粒の大きな原因となるため、刈取高は約10 c m以上に調整しましょう。
- ・収穫時間によっても汚粒の発生は変化します。露のある時間帯は避け、午前10時以降にコンバイン収穫を実施しましょう。
- ・茎や実の色がある雑草（イヌハウズキやタデ類）や、青立ち株（莢数が少なく、茎に緑色残り落葉しない株）は汚粒の原因になるため、収穫前に確実に抜き取りましょう。
- ・アレチウリ、帰化アサガオ類、ヤブツルアズキ、オオオナモミ等の難防除雑草が発生しているほ場は、伝播リスクを避けるため最後に刈り取ることとし、ほ場移動時には収穫機の清掃や洗浄を行って、雑草種子を徹底的に除去しましょう。



【タデ類】



【青立ち株】



【イヌハウズキ】

乾燥・調製

- ・大豆は、米・麦粒と異なり粒が大きく殻がないため表面の水分が抜けやすい一方、内側の水分が外側へ移動しにくいという特徴があります。急激な乾燥は品質低下の要因となるため、乾燥は緩やかに行いましょう。
- ・循環式乾燥機などの加温乾燥では、送風温度を30℃以下に設定し、急激な乾燥を避けることで、しわ粒や裂皮粒の発生を防止できます。
- ・収穫時に大豆の水分が高い場合、腐敗粒やしわ粒等が発生し品質低下を招くおそれがあるため、収穫後は、可能な限り速やかに乾燥・調製に取りかかりましょう。

令和7年 秋の農作業安全確認運動 実施中 「徹底しよう！ 農業機械の転落・転倒対策」

秋期：令和7年9月1日から11月30日

- ・農業機械の作業におけるシートベルトやヘルメットの着用を徹底しましょう！
- ・安全フレーム、キャブ付きトラクターを使用し、乗るときは立てましょう！
- ・作業機を付けた状態で公道を走行する際は灯火器類を設置しましょう！

